

[illegible]

専門	選択	材料強度学特論	0033	学修単位	2	2								長坂 明彦	
専門	選択	応用設計工学	0034	学修単位	2	2								北山 光也	
専門	選択	流体力学	0035	学修単位	2	2								戸谷 順信	
専門	選択	構造材料力学	0036	学修単位	2	2								永藤 壽宮	
専門	選択	材料科学	0037	学修単位	2	2								森山 実	
専門	選択	水環境工学	0038	学修単位	2	2								酒井 美月	
専門	選択	地盤工学特論	0039	学修単位	2	2								古本 吉倫	
専門	選択	交通システム計画	0040	学修単位	2	2								柳澤 吉保	
専門	選択	土質工学特論	0041	学修単位	2	2								松下 英次	
一般	必修	英語特論Ⅱ	0018	学修単位	2							2		山崎 健一	
一般	選択	倫理学特論	0019	学修単位	2					2				鬼頭 菓子	
一般	選択	理論経済学	0020	学修単位	2					2				二星 潤	
専門	必修	物質科学	0001	学修単位	2					2				板屋 智之	
専門	必修	機能デザイン	0002	学修単位	2							2		中島 利郎, 榆井 雅巳, 古本 吉倫	
専門	必修	産業システム工学輪講	0003	学修単位	2							2		轟 直希	
専門	選択	数理科学Ⅱ	0004	学修単位	2					2				山口 博己	
専門	選択	統計物理学	0005	学修単位	2					2				大西 浩次	
専門	選択	量子物理学	0006	学修単位	2							2		西村 治	
専門	選択	応用論理回路設計	0007	学修単位	2					2				小野 伸幸	
専門	選択	情報セキュリティ論	0008	学修単位	2					2				藤澤 義範	
専門	選択	信号処理論	0009	学修単位	2							2		宮崎 敬, 鈴木 宏	
専門	選択	マイコン応用	0010	学修単位	2							2		芦田 和毅	
専門	必修	特別研究Ⅱ※	0011	学修単位	8					4			4	長坂 明彦	
専門	選択	計算力学特論	0012	学修単位	2					2				遠藤 典男	
専門	選択	金属熱処理工学	0013	学修単位	2					2				堀内 富雄	
専門	選択	振動・騒音工学	0014	学修単位	2							2		岡田 学, 宮下 大輔	
専門	選択	環境保全工学	0015	学修単位	2					2				浅野 憲哉	
専門	選択	都市デザイン	0016	学修単位	2							2		西川 嘉雄	
専門	選択	加工プロセス特論	0017	学修単位	2							2		宮崎 忠	

長野工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	学外実習
科目基礎情報						
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 12		
開設学科	生産環境システム専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	12		
教科書/教材	教科書：受入れ企業等により個別対応，参考書：受入れ企業等により個別対応。					
担当教員	宮崎 忠					
到達目標						
取組む実習の内容を把握し，実施すべき事項を実習企業等と協議して計画し遂行できること。これらを企業等の学外実習責任者が作成する「学外実習評定書」，「学外実習月報」，「訪問面談」の評価により，(D-2)，(F-1)，(G-1)，(G-2)を評価する。 企業等の学外実習責任者が作成する「学外実習評定書」評価を 60%，学生および学生が作成する「学外実習月報」評価(提出回数)を 20%，教員が行う「訪問面談」評価を 20%とし，100 点満点により総合評価とする。「学外実習評定書」には細目の評定基準が示されている。 (D-2)には「学外実習評定書」の細目の「取組み」の 20 点を当て 20 点満点とする。(F-1)には「学外実習月報」の 20 点，「訪問面談」の 20 点を当て 40 点満点とする。 (G-1)には「学外実習評定書」の細目の「取組み」・「資質」の各 20 点，「学外実習月報」の 20 点，「訪問面談」の 20 点を当て 80 点満点とする。 (G-2)には「学外実習評定書」の細目の「取組み」・「資質」・「資質」の各 20 点を当て 60 点満点とする。総合評価が 60 点以上，かつ，(D-2)・(F-1)・(G-1)・(G-2)の学習教育目標の評価が満点の 60%以上の場合を合格とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	次の目的を達成するために，学生の希望・適性にあった企業等を選択し，14週間（540時間以上）を目処に，実務実習を行う。①企業等において、実践的・技術的感覚を養うこと。②社会における技術の必要性を学び，専攻科における勉学の意義を認識し、自己啓発をすること。③基礎学問が総合的に利用されて社会における技術として形成されていく過程を体験し，個々の専門技術に囚われない総合的な能力を高めること。					
授業の進め方・方法						
注意点	実習先が海外の場合，到着後現地の大学などで実習企業での心得や現地での注意事項に関する指導を受けてから実習を開始する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
評価割合						
	学外実習評定書		学外実習月報		訪問面談	合計
総合評価割合	60		20		20	100
基礎的能力	60		20		20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	実践工学演習	
科目基礎情報							
科目番号	0028			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産環境システム専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	0.5		
教科書/教材	教科書：担当者が準備したプリントなど，参考書：学外実習の手引						
担当教員	宮崎 忠						
到達目標							
基盤となる各工学分野の基礎的内容をもとに取り組む実習の内容を把握し，実施すべき事柄を計画できることで(D-3)の達成とする．学外実習の報告会の発表により(F-1)の達成とする．							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	基盤となる各工学分野の複合的実践である学外実習に関して，準備，中間時点での確認，成果報告を行うことを目的とする．						
授業の進め方・方法	学外実習と連動して実施する科目である．						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週	企業等の講演会（１）		企業等から講師を招いて講演を聴き，業務内容等について理解できる．		
		6週	企業等の講演会（２）		企業等から講師を招いて講演を聴き，業務内容等について理解できる．		
		7週	企業等の講演会（３）		企業等から講師を招いて講演を聴き，業務内容等について理解できる．		
		8週	特許等に関する講演会（１）		特許等の講演会に参加し，該当の内容について理解できる．		
	2ndQ	9週	特許等に関する講演会（２）		特許等の講演会に参加し，該当の内容について理解できる．		
		10週	学外実習のガイダンス		学外実習の目的を理解する．		
		11週	企業等打合せ（１）		実習先の企業等との打合せができ，実習に関する所定の項目について取決めができる．		
		12週	企業等打合せ（２）		実習先の企業等との打合せができ，実習に関する所定の項目について取決めができる．		
		13週	企業等打合せ（３）		実習先の企業等との打合せができ，実習に関する所定の項目について取決めができる．		
		14週	実習準備（１）		打合せに沿って実習の準備ができる．		
		15週	実習準備（２）		打合せに沿って実習の準備ができる．		
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週	報告書作成（１）		報告書を作成できる．		
		13週	報告書作成（２）		報告書を作成できる．		
		14週	報告会（１）		実習した概要について資料を作成し，発表できる．		
		15週	報告会（２）		実習した概要について資料を作成し，発表できる．		
		16週					
評価割合							
		学外実習の準備および計画		報告会		合計	

総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100